

みょうけんやま えんとつ 妙見山の煙突

ひらかたしじんけんせいさくしつ
枚方市人権政策室

こうりだんちいつたい せんじちゆう ほうだん へいきようかやく せいぞう こうり
香里団地一帯には、戦時中、砲弾などの兵器用火薬を製造する「香里
せいぞうしょ ちゆうごく せんそう げきか しょうわ
製造所」がありました。中国との戦争が激化してきた、1939（昭和14）
ねん う じ かやくせいぞうしょこうりこうじょう かいせつ
年に「宇治火薬製造所香里工場」として開設されました。

う じ かやくせいぞうしょ ぞうだい かやく じゅよう たい せいけい じゅうてん
宇治火薬製造所では、増大する火薬の需要に対して成型や充填の
さぎょう しんこうじょう けんせつ ひつよう ひこうき と う じ ちゅうしん
作業には新工場の建設が必要でした。飛行機を飛ばして宇治を中心
てきち さが ふきん じんか すく こうつう べん ひらかた
に適地を探したところ、付近に人家が少なく、交通の便もよい枚方の
な すづくり なかぶり きゅうりょうち み やま たに てんねん ひだ
茄子作・中振の丘陵地を見つけました。山と谷が天然の壁をなし、

ばくはつじ こ さい ゆうばく ふせ どのい やくめ ちけい そっこく しんこうじょう けんせつ けつてい
爆発事故の際、誘爆を防ぐ土塁の役目を果たす地形でした。そして即刻、新工場の建設が決定、
しょうわ ねん がつ ようち ばいしゅう どうねん がつ おうしょくやくあつさくこうじょう かやくせいぞうさぎょう
1939（昭和14）年1月には用地を買収し、同年12月には黄色薬圧搾工場で火薬製造作業が
はじ
始まりました。

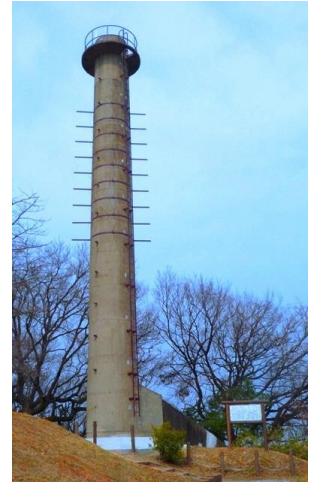
かたまちせん がっけん と しせん ほしだえき ひきこみせん う じ かやくせいぞうしょ きづえき けいゆ かたまち
片町線（学研都市線）星田駅から引込線がひかれ、宇治火薬製造所とは木津駅を経由して片町
せん ならせん むす かやくるい ゆそう かたまちせん おおさか こうり ひらかた う じ むす かやく
線・奈良線で結び、火薬類が輸送されました。片町線は大阪ー香里・枚方ー宇治を結ぶ火薬な
へいきるい ゆそう だいどうみやく こうりこうじょう けんせつ ともな かわごしりょう かんこうりょう
どの兵器類を輸送する大動脈となりました。香里工場の建設に伴い川越寮・菅公寮・
くわがたにりょう こうだりょう こういんりょう じゅんじけんせつ
桑ヶ谷寮・高田寮などの工員寮も順次建設されました。

こうりこうじょう しょうわ ねん がつついたち とうきょうだいにりくぐんぞうへいしゅうこうりせいぞうしょ どりつ
香里工場は 1942（昭和17）年3月1日、東京第二陸軍造兵廠香里製造所として独立しま
へクタール しきち だいしゅう むね たてもの ゆう やく にん こういん はたら
した。140 h a の敷地、大小230棟の建物を有し、約5,000人もの工員が働いていました。
う じせいぞうしょ おく しめ かやく かんそう ほうだん ばくだん つ かんせいひん さぎょう
宇治製造所から送られてきた湿った火薬を乾燥させ、砲弾や爆弾に詰めて完成品にする作業
ちゅうしん こうりだんち たてもの ゆいつ いいん のこ
が中心でした。香里団地にはその建物が唯一、医院として残っています。

みょうけんやま はいすいち のこ えんとつ せいしきめいしゅう とうきょうだいにりくぐんぞうへいしゅうこうりせいぞうしょだい
妙見山の配水池に残るこの煙突の正式名称は「東京第二陸軍造兵廠香里製造所第3
きかんばえんとつ せきたん た えんとつ かやく かき げんきん かんそう
汽罐場煙突」といいます。石炭を焚いたボイラーの煙突です。火薬に火気は厳禁で、乾燥には
つく ねつ りょう かやく かんそう
ボイラーで作ったスチーム熱を利用して火薬を乾燥していました。

えんとつ てつきん せい たか やく ちよつけい やく えんとつ
この煙突は、鉄筋コンクリート製で、高さは約20メートル・直径は約2メートルもあり、煙突

（裏面に続く）



うえ ほう てつ とつき だいに じせかいたいせん とき ぐん ひこうき こうげき さ
の上の方にある鉄の突起は、第二次世界大戦の時にアメリカ軍の飛行機からの攻撃を避けるた
めに、木の枝をくくり付けて大きな木に見せかけるために付けた物です。

はいせん こうじょう へい さ しょうわ ねん ちょうせんせんそう とくじゅ かやくせいぞう
敗戦により工場は閉鎖されましたが、1952(昭和27)年、朝鮮戦争の特需にのって火薬製造
がいしゃ きゅうこうりせいぞうしよ はら さ しんせい おどろ ひらかたし ねやがわし こうりえんちく
会社が、旧香里製造所の払い下げを申請しました。これに驚いた枚方市・寝屋川市の香里園地区
じゅうみん はや かやくせいぞうしよさいかいほんたい うんどう てんかい
住民は、いち早く火薬製造所再開反対の運動を展開しました。

ひらかたしちょう しぎかい ちょうないかい ピーティーイー ふじんかい さいかいほんたい さけ こっかい せいふ
枚方市長・市議会をはじめ町内会、PTA、婦人会などは再開反対を叫んで、国会・政府に
ちんじょう かせ しゅうぎいんつうさんいん げんちしきつ ほんたい はた こうりえんちく う
陳情を重ね、衆議院通産委員の現地視察には、反対の旗とプラカードが香里園地区を埋めつく
しました。そして半年以上に及ぶ粘り強い地元の反対運動が実り、翌年3月、政府は火薬製造所
さいかい だんねん
再開を断念しました。

しょうわ ねん にほんじゅうたくこうだん げん としさいせいきこう つうしょう ゆーあーる せつりつ
1955(昭和30)年に日本住宅公団(現都市再生機構 通称「UR」)が設立されると、
とうちいき だいきぼ じゅうたくけんせつ けいかく よくとし こうりだんち けんせつ きゅうせいぞうしよ
当地域に大規模な住宅建設が計画され、翌年、香里団地の建設がはじまりました。旧製造所の
たてものしせつ てつきよ きんだいてき いっぺん みょうけんやま いっかく だんちけいかく
建物施設は、すべて撤去され近代的なニュータウンに一変しました。妙見山の一角は団地計画
はず きゅうせいぞうしよきかんば えんとつ てつきよ のこ
から外れたため、旧製造所汽罐場の煙突は撤去されずに残りました。

けむり だ じだい ふたた けむり だ く ひろ しみん へいわ あつ おも へいわ
煙を出していた時代。再び煙を出さないように繰り返し広げた市民の平和への熱い思い。平和な
じゅうたくち へんぼう すがた えんとつ みつづ
住宅地へと変貌した姿を、この煙突は見続けてきました。

ひらかたし しょうわ ねん がつ おおさかふない はじ ひかくへいわとしせんげん おこな ふせん
枚方市は、1982(昭和57)年12月に大阪府内で初めて「非核平和都市宣言」を行い「不戦と
へいわ えんとつ ほぞん
平和」のシンボルとして、この煙突を保存することにしました。なお、2010(平成22)年度に、
たいしんほきょうおよ ほしゅうこうじ おこな
耐震補強及び補修工事を行っています。



うしろ たてもの こうりせいぞうしよ へいせい ねん と こわ
後の建物は香里製造所(2007(平成19)年取り壊し)



きゅうこうりかやくせいぞうしよ しょうわ ねん
旧香里火薬製造所(1954(昭和29)年)